

第2分科会

【演題等】「滋賀の不登校対策のこれまでとこれから
～教育と福祉の連携による施策構築～」

【講演・発表者】

滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課児童生徒室 主査 田中 哲郎
指導主事 永元 良典
滋賀県子ども若者部子どもの育ち学び支援課 参事 清水 仁

・発表概要

滋賀県では不登校の子どもの支援のため、「しがの学びと居場所の保障プラン」を策定した。プランでは、多様な学びの機会と安心して成長できる居場所の確保を目指し、子どもの状態に応じ、教育と福祉の観点から、教育施策と子ども施策に取り組む関係機関が連携した「チーム」で支援することとしている。そのプランと、今年度の取組状況について以下のように発表した。



1. しがの学びと居場所の保障プランについて
 - (1) 滋賀県内公立学校の不登校児童生徒の現状について
 - (2) 教育委員会と子ども若者部の所管整理について
2. 教育と福祉の連携による施策について

・発表要旨

1. しがの学びと居場所の保障プランについて

- (1) 滋賀県内公立学校の不登校児童生徒の現状について
 - ①令和4年度、滋賀県では小・中学校等の不登校児童生徒数は過去最多の状況にある。
 - ②専門家等による相談・指導等を受けていない児童生徒の支援を進めることがポイントとして捉えている。
 - ③この現状を受けて滋賀県では、教育委員会だけでなく首長会議でも不登校対策を話題とした。また、不登校対策懇話会で様々な立場の意見を聴取し、不登校対策を考える機会とした。
- ④滋賀における子ども施策を一層推進するための体制強化として、「子ども若者部」を設置した。
- (2) 教育委員会と子ども若者部の所管整理について
教育委員会幼小中教育課児童生徒室と子ども若者部子どもの育ち学び支援課とで相互に職員の併任をかけることで、不登校対策等、両所属が協力して進めるべき施策に対応できる体制の整備を進めている。

2. 教育と福祉の連携による施策について

- ・教育と福祉の連携による、本人や保護者への相談・支援の充実については、「心の健康観察」の導入に向けて、4校4市町のモデル校を対象に準備中。家庭と学校をつなぐ「届ける家庭教育支援」地域活性化事業は、モデル市町によって現在進行中。
- ・多様な学びの場・居場所の確保については、「民間施設を利用する子どもや保護者への支援の在り方調査・検証事業」を7月からスタートさせている。
- ・オンライン学習等の支援については、「メタバースの利活用」を9月から試験運用するために現在参加者を募集中。会場の参加者からは、メタバース空間上だと安心感があり自分の気持ちを表現しやすい効果があった事例の紹介があった。
- ・安心して学べる学校づくり、多様な学びの場・居場所等と学校との連携強化については、様々な意見を参考にしながら、さらにブラッシュアップしていく。

・質疑応答の概要

- Q1：家の外に出られない、または部屋から出ることができない児童生徒に対して、どのような支援をすればよいか。
- A1：市の取組としては、バーチャル上での支援を検討しているが、形にはなっていない。今までの経験上、家庭訪問が大事。市では、教員、市教委、SSWと一緒に家庭訪問をして、学びにつなぐことを意識している。相談したくないという保護者や児童生徒も増えてきているように感じる。
- Q2：LINE相談や心の健康観察について、現状を教えてください。特に、ライン相談でハイリスクな相談が匿名であった場合、どのようなところまでサポートしていく予定なのか。心の健康観察で毎日不安定な状態の子どもがいるときに、だれが、いつ、どうやって見つけていくのか。そして見つけた後で、どうしていくのか。
- A2：ライン相談は匿名のため、まずは相談の話を受け止めて、次のつなぎ先を紹介するようにしている。また、命に関わるかもしれない場合については、情報を共有して策を考えるが、実際のところは、匿名性もあるのでそれ以上進めないのが現状。あくまでも相談を受け止めている現状であり、限界があると感じている。
心の健康観察については、未だ実際に動いていないため、毎日心が不安定な状態という想定もおこななければならない。改めて、課題をいただいたと思って検討をしていきたい。
- Q3：滋賀県の場合、福祉の所管と学習指導の所管が違う課になっているが、そのあたりの連携をどのようにされていくのか。
- A3：教育委員会と話しながら現場の先生にも伝わるような対策が必要になる。相談関係は、一人一台端末を活用した仕組みができないかを考えていると現状。学習のことになると、教育委員会と話を詰めていくところで考えさせていただいているのが現状。
- Q4：教育と福祉の連携についての困難さについて今後、これを乗り越えたらさらによくなるという部分はあるのか。
- A4：プラン作成に当たって、教育委員会としては「学びをどうするのか」を重視していたが、福祉の方と話を進めていくと、「居場所をどうするか」の話が出てきた。これらのバランスを調整するのが困難さの一つであった。また、教育と福祉では「文化が違う」という話になることもあるが、話をしながらお互いに理解を深めていくことが大切だと思う。

- **記録者雑感**

滋賀の不登校対策について、「教育と福祉の連携」をキーワードに実践報告するなかで、参加者からも様々な御意見をいただくとともに、多様な考えを共有できる貴重な時間となった。「子どもたちの最善の利益」を実現するために、連携を親密にし、コミュニケーションを取りながら実践を進めていくことの大切さを感じた。